

健康づくり協議会資料

重症化予防（受診勧奨）対策取組報告



全国健康保険協会群馬支部
保健グループ

受診勧奨対象者割合の経年変化

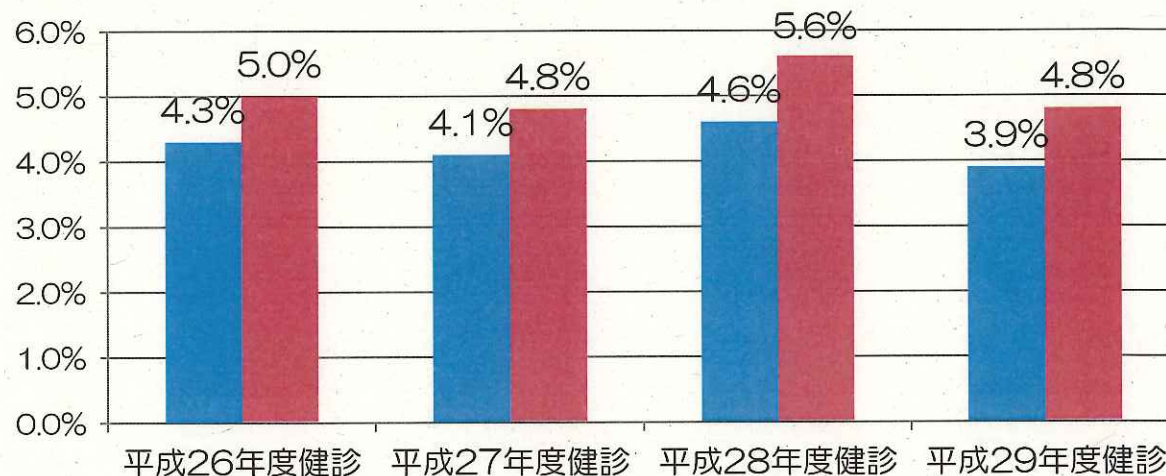
受診勧奨対象者が多い⇒受診勧奨の強化とともに対象者を減らす取組も重要

要治療（一次勧奨対象者）

血圧160/100mmHg以上
空腹時血糖126mg/dl以上

（H29年度健診分）
※要治療域（一次勧奨）
7,030名（該当率4.8%）

■ 一次勧奨（全国）
■ 一次勧奨（群馬）

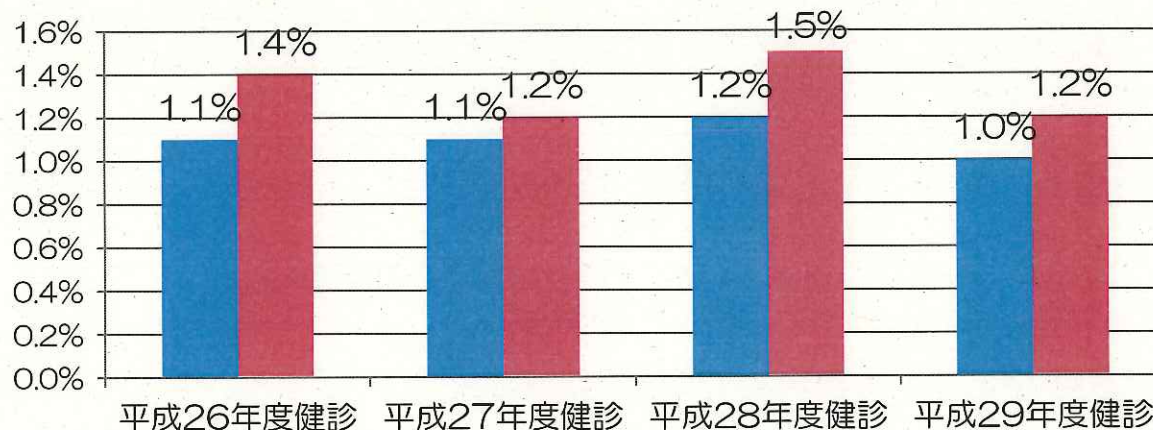


重症域（二次勧奨対象者）

血圧180/110mmHg以上
空腹時血糖160mg/dl以上

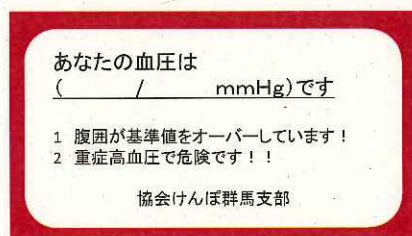
（H29年度健診分）
※重症域（二次勧奨）再掲
1,823名（該当率1.2%）

■ 二次勧奨（再掲）（全国）
■ 二次勧奨（再掲）（群馬）



群馬支部の取組報告 : 「警告カードの配付」

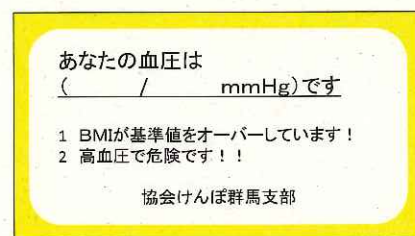
- ＜目的＞ 健診受診時の血圧測定等の結果から「受診の必要性」を伝え、健診後の早期の受診を促すことで、受診勧奨対象者を減らす
- ＜協力機関＞ 高崎市内の健診機関（特定保健指導実施機関）
- ＜試行経過＞ 8月見本提案し意見聴取、9月中修正、10月中旬から配付開始
- ＜配付方法＞ 保健師が血圧測定時に記入し渡す
高血圧症治療中の方を除き、測定後に配付。腹囲等については、健診の流れの都合上、説明していない。
- ＜配布状況＞ レッドカード 3-4枚、イエローカード 15-6枚 合計20枚位



↑ 血圧180/110mmHg以上

【参考】 生活習慣病予防健診受診者

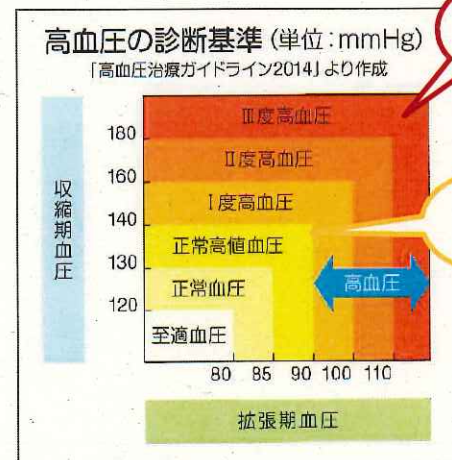
特定保健指導対象者



↑ 血圧140/90mmHg以上の方

月平均 50名

月平均 7-8名



＜受診者の反応＞

- 「・・・」（検査の合間に血圧値などをじっくり眺めている様子）
「いつも指摘されているので、注意されたんだね」
※渡された際のトラブルなし
※健診後のクレーム等問い合わせなし
（協会けんぽへの問い合わせもなし）

群馬支部の取組報告 : 「警告カードの配付」

＜保健師さんの感想＞

- もともと血圧測定は保健師が行っており、高めの場合は脈拍をとり、体調を確認しながら血圧値を伝え、高い場合には説明もしていたので、カードを渡すことに抵抗はなかった。むしろ口頭で伝えていた数値を書いて渡すことで、分かりやすく伝えることができたと思う。
- 血圧測定した保健師が内科診察にもつくため、カードを渡した方の場合は、医師に『血圧が高かった方です』と伝えている。（診察の流れに支障なし）
- カードを渡した方には、血圧リスクがあると判別できるため、保健指導の対象者選定がスムーズで、対象者に説明もしやすい。
⇒カードをきっかけに当日初回面接実施につながった方は1-2名
- これからも配付してみたい
⇒2月健診機関合同説明会の際に発表いただくこととなった

＜その他の指摘＞

- 後日協会けんぽから保健指導の案内が届くということが記載されているので、協会けんぽ加入者であると改めて自覚してくれている印象がある。
また、病院での“健診”が、協会けんぽからの“指導の案内”につながるという関係性に気付く方もあるではないか。
- 健診後にカードを持って、外来を受診した例はまだない（外来との連携）

群馬支部の取組報告：「警告カードの配付」

＜検討事項＞

- 今回の試行が、比較的スムーズに行えているのは、導入前からの保健師と健診受診者との関係性が良好であったこと、健診の流れに保健師が係っている体制が構築されていたためにトライアルしやすい状況であったこと等が影響していると思われる。
- 今後も協力健診機関を増やし（追加で高崎市内1機関検討中）、健診機関それぞれの状況に合わせた運用面の工夫を行い、効果検証したい。
- 今回の試行について、受診勧奨対象者該当率の変化、特定保健指導初回実施率の変化等みていきたい。

